

平成22年度農作物病虫害発生予察技術資料第4号

平成22年(2010年)7月20日
山口県病虫害防除所

トビイロウンカの長期予報

本年のイネのトビイロウンカの発生型予測については、以下のとおりです。今後の防除指導の参考にしてください。

1 予報内容

(1) 対象地域 県内全域

(2) 今後の予測

過去の発生データを利用した解析方法による予測結果では、「9月発生型」または「少発生型」になる確率が高く（発生型については参考資料を参照）、9月に入り一部地域で坪枯れが発生する可能性がある。

2 防除対策

(1) 防除方法

第1世代幼虫最盛期（8月1日～4日頃）にはほ場で発生密度を確認のうえ、防除の目安を超えるほ場では直ちに防除を実施する。

(2) 防除適期（図を参照）

ア 8月1日～4日頃（7月12日飛来波の第1世代幼虫最盛期）

イ 8月27日～9月上旬（7月12日飛来波の第2世代幼虫最盛期）

(3) 防除の目安

ア 8月上旬まで 100株当たり20頭以上（成幼虫）

イ 8月中旬以降 株当たり5頭以上

(4) 注意事項

ア 飛来時期が複数あるため、農薬散布後は必ず効果を確認し、必要に応じて追加防除を行う。

イ ほ場を確認する際には、セジロウンカ短翅成虫やヒメトビウンカと見誤らないようにする。

ウ 今後の発生予察情報を参考にする。

3 発生状況

(1) 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は4.0%（平年1.9%）、10株当たり虫数は0.016頭（平年0.011頭）で平年に比べやや多かった。

(2) 飛来日は、6月27日(少)、7月12日(並)頃と推測された。

(3) 予察灯での誘殺数（4か所、5月11日～7月13日）は、0頭（平年23.6頭）で平年に比べやや少なかった。

4 今後の長期予報発表予定

8月4日、8月18日頃

<参考資料>
発生型の解説

		少発生型	9月発生型	8月後半発生型	初期多発生型
各発生型になる確率					
5月中旬移植		92%	0%	4%	4%
5月下旬移植		0%	85%	15%	0%
6月上旬移植		7%	85%	4%	4%
定義		全体的に発生量が少なく、発生ピークの不明瞭な発生型。	9月に入り、主に第3世代幼虫が増加し、発生ピークとなる発生型。	8月4～6半旬に、主に第2世代成幼虫が増加し、発生ピークとなる発生型。	8月前半に、主に第2世代の幼虫が急増する発生型。
発生の模式図	密度				
	月	7月 8月 9月	7月 8月 9月	7月 8月 9月	7月 8月 9月
発生年の概要		少発生年に多い発生型	一部地域で多発生することがある発生型	多発生年に出現が多い発生型	激発生年に多い発生型
坪枯れ	発生時期	9月	9月上旬以降	8月下旬以降	8月中旬以降
	発生程度	極少～少	少	並～多	多
対策 (防除の目安を越えるほ場)		防除の目安を越えるほ場のみ防除し、他は防除の必要なし。	8月中下旬に防除を実施する。	7月下旬～8月上旬に防除を実施する。	7月中下旬に防除を徹底する。

注) 予測方法は、過去29年間における県予察ほ場(山口市大内)、県内巡回調査ほ場のウンカ類発生状況、飛来状況及び気象条件から本年の発生型を各移植時期別に判別した。

JPP-NET病害虫発生予測システム

	7月				8月						
	飛来日	10	15	20	25	1	5	10	15	20	25
トビイロウンカ											
△ 6月27日			o	@	@	@	o	o	o	o	A
☆ ○ 7月12日	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

防除適期

予測月日 2010年 7月 20日

凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 @: 防除適期
☆ 主要な飛来 ◎ 多飛来 ○ 並飛来 △ 少飛来

図 トビイロウンカの防除適期予測